

\*\*\*\*\*  
 2014 年度 第 4 回 音環境運営委員会 議事録

記録：安田

- \*\*\*\*\*
- A. 日時 2015 年 2 月 17 日（火）17 時 00 分～19 時 00 分
- B. 場所 建築学会会議室
- C. 出席者 岡野利行（主査）、穴井 謙、稲留康一、井上勝夫、岩本 毅、古賀貴士、坂本慎一、佐久間哲哉、杉江 聡、田端 淳、永松英夫、平松友孝、宮島 徹（幹事）、安田洋介（幹事）
- 欠席者 佐藤 洋、佐藤史明、中澤真司、濱田幸雄、平光厚雄（敬称略）

D. 提出資料

2014 年度第 4 回音環境運営委員会議事次第

- No. 4-0 2014 年度第 3 回音環境運営委員会議事録（案）
- No. 4-1 2014 年度第 4 回環境工学本委員会議題
- No. 4-2 2014 年度小委員会活動成果報告
- No. 4-3 2015 年度音環境運営委員会各小委員会設置期間・予算額

E. 議事記録

1. 前回議事録の確認（資料 No. 4-0）

- ・ 修正事項：4.②「岩本委員」→「岩本主査」、⑥「集住」→「集合住宅」、⑦「中澤委員」→「中澤主査」
- ・ 上記修正の上、承認された。

2. 環境工学本委員会の報告（資料 No. 4-1）

(1) 大会関連

- ・ 2014 年度大会報告：研究協議会・研究懇談会の出席者が少なかった。次年度は増やしたい。
- ・ 複数の講演発表：2015 年度大会から、建築デザイン発表と学術講演との両方で講演発表が可能となる。発表時間帯が重なった場合は学術講演を優先し、当該のデザイン発表について共同発表者の代理を認める。
- ・ プログラム編成会議：2015/4/20（月）13 時～。
- ・ 発表要領の変更点：連報 5 分→6 分へ。
- ・ 環境工学部門懇親会案：（案 1）陣屋（老舗旅館）、（案 2）東海大学食堂。案 2 で検討する。

(2) 竹中育英会建築研究助成：2014 年度は音環境はなし。2015 年度募集の申請書の提出期限は 2015/3/31。

(3) 2015 年度情報保障に関する費用支援の申請について

- ・ 常置調査研究活動において障害を持つ委員に配慮し、2009 年度から情報保障費として 10 万円を予算化。
- ・ 支援を希望する委員会は、2015/3/20 までに一ノ瀬さんに申請書を提出いただきたい。

(4) 2013～2014 年度調査研究委員会活動報告会：2015/3/25 に開催予定。環境工学委員会は報告書提出のみ。

(5) 2015 年度 AIJ 技術部門設計競技：本形式は今回が最後。積極的に応募願いたい。企業からの応募も可。

(6) 若手優秀発表：

- ・ 2014 年度は音環境から 4 名が顕彰されている。顕彰者は Web ページに掲載されている。
- ・ 音環境は来年度も実施する予定である。3/20 までに実施要領案を提出する必要がある。評価方法の簡素化を含め、岡野主査が案を作成する。
- ・ 重賞は認めない（受賞は一度きりである）こととなったため、過去の顕彰記録を残しておく必要がある。委員会 Web ページに記載しておく方法もある。

## (7) 委員の推薦

- ・ 論文集委員会：来年度も引き続き穴井委員に担当いただく。
- ・ 技術報告集委員推薦：安田委員の任期が終了。環境工学の4枠中、音・振動で1名推薦する必要がある。次は音環境から推薦することとなっている。岡野主査から大分大の富来先生に打診する。

## (8) 「委員会等の運営に関する申し合わせ」の改正

- ・ 配布資料：事務局でコピー，または当該委員が必要部数を用意 → 当該委員によるオンラインストレージへの事前アップロード，及びそこからの各委員のダウンロード
- ・ 議事録：事務局に提出 → オンラインストレージにアップロード
- ・ 通信：E-mail 等 IT を極力利用 → 委員会オンラインストレージや E-mail 等 IT を極力利用
- ・ 事務局の分担業務：「運営委員会・小委員会等の欠席者資料の配布」，「会議資料の印刷」の項目を削除。

## (9) 「環境工学委員会 WG 運営について」の改正

- ・ 旅費：「上部委員会主査の了承を得て，前日までに事務局担当者へ連絡」を「3日前まで」に変更。「旅費支給を受ける際には領収書等の証憑類の提出が必要」の記述を追加。
- ・ 通信費：「通信費について」を全て削除。
- ・ 配布資料：上記(8)同様，オンラインストレージを利用する旨を明記。

(10) 音環境運営委からの提出物：出版事業見直しに関するお伺い，東日本大震災第二次提言調査票，共に提出した。

(11) 委員の委嘱・解嘱：環境工学本委員会にて承認された。

## (12) 予算関連

- ・ 2014年度執行状況：音環境運営委では2/15現在42%。100%の執行に向けて着実に執行をお願いしたい。
- ・ 2015年度各小委員会予算（資料4-3）：100%の執行をお願いしたい。

(13) 来年度体制：環境工学本委員会委員長：羽山先生（北大），企画刊行運営委員会主査：田辺先生（早稲田大）。

(14) オンラインストレージについて：委員会名が一字でも変わる場合，内容が全て消去されてしまう。当該委員会には3/20までにバックアップをお願いする。

**3. 審議事項**

## (1) 集合住宅音環境規準・設計指針について

- ・ AIJES の総則の改訂案が了承された。
- ・ 改訂内容（本文）：以下が追記された。
  - ✓ 2.4 種類：「ただし，「作成のフロー」で「FDS 査読結果の承認」または「ES 承認」が得られなかったものについては，その判断に至った経緯を記録するとともに，AIJES に該当しない「その他の文書」の形をとることができる。」
  - ✓ 同：「その他の文書には「技術の現状」や「考え方」などがある。」
  - ✓ 2.11.1 用語の定義「関連運営委員会査読」：「なお，作成時および大改訂時は査読者の選任結果について企画刊行運営委員会，環境工学委員会の承認を必要とする。」
  - ✓ 同：「なお，作成時および大改訂時は企画刊行運営委員会の承認を必要とする。」
  - ✓ 2.11.2 作成のフロー：「\*4：「その他の文書」は AIJES に該当しない。」
- ・ 改訂内容（作成のフロー）：

- ✓ 関連運営委からの「査読者の提案」を受け、企画刊行運営委、環境工学委が「査読者の承認」を行う。
- ✓ これを受け、関連運営委が FDS 査読を行い、企画刊行運営委が「FDS 査読結果の承認」を行う。
- ✓ 上記査読が YES (Y) であれば、「パブリックコメント募集」「ES 作成」「ES 完成」へと進み、「ES の承認」を受ける。YES (Y) であれば「ES の出版」となる。
- ✓ 「FDS 査読結果の承認」ないし「ES の承認」が NO (N) であれば、作成担当にて「N に至った経緯の記録」及び「その他の文書」の作成を行い、「その他の文書」の承認・出版へと進む。
- ・ 改訂に関する補足報告
  - ✓ 「「その他の文書」の形をとることができる」との表現であるため、「その他の文書」とせず公表しないことが可能であるとも読めるが、極力公表するよう努力することを申し合わせた。
  - ✓ 今後の具体的な作業は、まず刊行企画書を修正し提出することである。5 月の本委員会にて承認予定。
  - ✓ 「作成のフロー」内の「N に至った経緯の記録」の具体的な方法については、企画刊行運営委が確認し、環境工学本委員会に報告するものと考えられる。
  - ✓ 2/20 に企画刊行委員会を合同開催する。それまでに主査が下記の疑問点について確認する。
- ・ 疑問・意見等
  - ✓ 「N に至った経緯の記録」が重要ではないか。それを基に「その他の文書」を作成するかどうかを含めて検討することになるのでは。→ 誰がどのような形で保管するのか、岡野主査が確認する。
  - ✓ 「その他の文書」の承認時に可否 (Y or N) の判断があるのか、フロー上のチェックが必要であろう。
  - ✓ 「その他の文書」ではまえがきが重要である。少なくとも音環境運営委の承認を得る必要がある。
  - ✓ 一般図書となるのか（著者責任で出版するのか）。2 つの遮音評価基準が出版されていることになるため、混乱を招かないようにする必要がある。あくまで 1 つの提案であることなど、まえがきで十分説明する必要がある。

#### 4. 各小委員会・WG の活動報告（資料 4-2）

##### ① 固体音小委員会（稲留主査）

- ・ 前回 1/29, 次回 3/24. 6 月に実施した小林理研での測定の分析、及び予測手法の勉強会を開催した。
- ・ 2014 年度活動成果報告：床衝撃音遮断性能に関する文献調査を完了し、結果を小委の HP 上に公開した。ボール衝撃源による床衝撃音レベルの低音域における室内音圧レベルを測定した。現在分析中である。床衝撃音予測手法の勉強会を開催した。自己評価 A。

##### ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）

- ・ 前回 1/21, 次回 3/18.
- ・ 2014 年度活動成果報告：住戸内で測定された騒音データを基に室内騒音レベルの最適値について検討した。建物の立地条件で評価値がどのように変化するか確認・考察している。鉄道騒音については、評価値をどうするか (LAEq, 最大値, 両者の併用) 検討中である。次年度以降は小田急の騒音訴訟などの判例を参考にしていく。自己評価 A。

##### ③ 建築音響測定法小委員会（杉江主査）

- ・ 前回 12/4, 次回 3/5. PU センサの校正法について、主として低周波数域に関して議論・検討した。あらかたまとまったと考えている。フランキングについては、音響インテンシティ法を用いた共同実験を開催した。スペクトル調整項を用いた評価については継続審議とする。
- ・ 2014 年度活動成果報告：PU センサを用いて室内のエネルギー密度測定を実施するとともに、PU センサの

校正方法の検討を行った。フランキングについては、音響インテンシティ法の適用を検討した。外周壁の遮音性能測定については、適切な現場が見つからず実施していない。自己評価 A。

④ 室内音響小委員会（岡野運営委主査代理報告）

- ・ 2014 年度活動成果報告：傘下の 4WG における達成度はいずれも高い。次年度において、「室内音場の先進的な測定・解析・評価」をテーマに OS を開催する運びである。子どものための音環境 WG でも OS を検討している。自己評価 A。

⑤ 音響数値解析小委員会（坂本主査）

- ・ 前回 12/26, 次回 3/18. 境界条件としての比音響インピーダンス比の測定に関連して、東大・新領域の井上氏に音響管計測における吸音材の理論予測についてレクチャーいただいた。ベンチマーク問題についても継続的に議論を進めた。
- ・ 2014 年度活動報告：境界条件に関する検討では、各研究機関において代表的な音響材料のデータを測定し、データベースを作成した。また、計測方法と結果の関係性に関する情報交換を行った。ベンチマーク問題については、吸音境界条件に関わるものを作成し HP を整備した。さらに 2 回のハンズオンセミナーを開催し啓蒙・普及に努めた。自己評価 A。

⑥ 音環境規準検討小委員会（古賀主査）

- ・ 前回 1/13, 次回 3/13. ISO に関して、欧州、米国で住宅の遮音性能基準等の案が出ており、議論した。米国主導 ISO16816 では、デザインプロセスで音響設計がどう絡むのか、という点から明文化しようとしている。このようなスタイルは未だ日本にはないのではないか。役割分担を明確にする姿勢が伺え、音響関係者の地位向上にもつながる。その他、集合住宅以外（鉄骨造・事務所棟）に関する議論を行った。
- ・ 2014 年度活動報告：音環境規準全体のグランドデザインの検討に関しては、大会において OS を実施し活況を呈した。今後の在り方についてコンセンサスを得る場を設けるべきではないか。また、集合住宅に関する規準・指針についてのフォローを行ったほか、新規 AIJES の取り組みに関する議論も継続的に進めている。自己評価 A。

⑦ 企画・広報WG（中澤主査メール報告）

- ・ 前回 2/5, 次回 4/13.
- ・ 2014 年度活動報告：出版物拡充の方向性を見出す資料として、建築音響関連の既刊物を対象とした評価シートを作成し評価した。また、梗概検索システム「建音検索」を継続公開している。自己評価 A。

## 5. 関連学協会からの情報

### (1) 騒音振動研究会

- ・ 2/20 九州大学（発表 8 件）、3/6 沖縄、4 月休会、5/28 大同大学。
- ・ 次期委員長：矢野先生（熊本大）。

### (2) 建築音響研究会

- ・ 3/10 鎌ヶ谷、4/28 田町、5/27 東京。

次回予定：2015 年 5 月末頃を目途に調整

以上